

第 30 回生産物分類策定研究会（意見交換） 議事概要

- 1 日 時 令和 2 年 12 月 4 日（金） 10：00～12：00
- 2 場 所 書面開催（但し、構成員及び審議協力者とは、上記の日時に web による意見交換を行った。）
- 3 出席者 （構成員）宮川座長、菅構成員、牧野構成員、居城構成員
（審議協力者）中村審議協力者
（オブザーバー）経済産業省
- 4 議 題
 - 1 研究会における議論等を踏まえた修正等について
 - ・ E 製造業③（24 金属製品製造業，25 はん用機械器具製造業，26 生産用機械器具製造業，27 業務用機械器具製造業，28 電子部品・デバイス・電子回路製造業，29 電気機械器具製造業，30 情報通信機械器具製造業，31 輸送用機械器具製造業）
 - 2 用途の類似性（需要側視点）に基づく分類体系の構築について

5 概 要

事務局から、研究会における意見に基づき修正された「E 製造業③」に係る生産物分類の修正案について説明があった。また、資料に基づき、用途の類似性（需要側視点）に基づく分類体系の構築についての説明があった。

主な意見については、以下のとおり。

【1 研究会における議論等を踏まえた修正等（E 製造業③）について】

（資料 1－1 の「No.8」について）

- 「防衛用艦船」という表現は同じ意味を二つ重ねており、奇妙に感じられる。防衛用を国家公務用というような表現にしたとすると、消防や警察などのヘリコプターも入ってしまうが、そうした場合、SNA 上の問題があるか。
- SNA においては政府の機能別の支出（COFOG）というのがあり、防衛と警察とは分かれているため、そこが一緒になっていると使いにくいというのは事実である。一方で、当該推計には、政府の決算書から持ってきており、直接、生産側の数字を使っているわけではない。但し、その決算書と IO における生産額の整合性が取れている方が良く、そのためには、生産物の単位で防衛省分とそれ以外とが分かれていた方が突き合わせしやすいというのは事実であり、後は、記入者負担との兼ね合いだと思う。
- 08SNA においては、ウェポンズシステムという言葉を防衛装備品と訳している。国家公務員が使うものということで新しいグループを作るとすれば、それは今までの SNA とは異なってしまうことになる。

- 理想としては、防衛と警察や海上保安のようなものを分けて、さらに民間も分けるようなことができれば問題は解決すると思うが、そのようなことは可能か。
 - 企業会計上は分かれているのではないかとと思われる。
 - 今後、日本の企業による航空機の生産が本格化してきたときに、それが公需に行くのか民需に行くのかというところを把握するというニーズが出てくる可能性は否定できない。
 - それでは航空機本体については、防衛と防衛以外の公的と、民間の3つに分けて分類項目を設定することとする。また、その内容で工業統計などの調査で問題がないかも確認をしてもらい、特段の問題がなければそれを最終案としたい。もし問題が出てきた場合には、座長預かりという形で検討するか、あるいは必要であれば改めて研究会でご相談をさせていただく。
- 航空機の修理サービスについては、サービスの性質としてそう変わると思わないため、公的と民間とに分ける必要はないと考える。
- 修理サービスについては防衛用とその他だけを分けて、分類項目を設定することとする。
- 「防衛用艦船」という表現については、防衛装備品という言葉を使う方がよいと感じる。「船舶（官公需防衛装備品）」というような表現ではどうだろうか。
- 防衛装備品という言葉で統一したいと思う。官公需という表現に関しては、サービス分野の生産物分類も含めた他の品目で、官公庁向けのような表現があれば、合わせる必要があるかもしれない。
 - 医療や保健などで出てきている可能性もあるので、確認をする。
- 詳細分類として、「その他の国内航空機の修理・オーバーホール」や「その他の外国航空機の修理・オーバーホール」という項目が設定されているが、国内航空機用や外国航空機用というのは、実際に捉えることができているのか。それは会社で取るのか。また、会社で取ったとしても、リースなどがあるような気もする。リースでどこから借りているなどということ考えた場合、このように分けてうまく取れるのかというように思うがいかがか。
- リースについては考慮をしておらず、確認もできていない。
 - そもそもこれらは、サービスの内容が違うわけではない。特殊貿易のことがあるため、分けることができるのであれば分けようということではあった。書けないのであれば、むしろ分けない方がよいということもある。これを確認することは難しいか。
 - この場で即答することは難しいため、またご相談をさせていただきたい。
 - それでは、ご指摘のあった点については引き続き検討とする。問題がないようであ

ればこのままの分類項目を設定することとし、問題があるようであれば、国内と外国とは統合することとする。

(資料1-1の「No.1~7」及び「No.9~14」について)

- ドライブレコーダーについては、業務用とコンシューマー用とで内容が異なっているようにも思われるが、分類項目としては分けなくてよい。
 - 業界統計でも数字が取れていないところがある。分類項目を設定しても、必ずしも数字が取れるわけではないと判断し、分けてはいない。
 - 業務用は本当に産業向けで、コンシューマー用は本当に家計向けかいうと、微妙なところがあるようにも感じられる。ドライブレコーダーについては2つに分けず、このままとする。
- 資料1-1の「No.1~7」及び「No.9~14」については、修正案のとおりとすることです承がされた。

【2 用途の類似性（需要側視点）に基づく分類体系の構築について】

(資料2-1について)

- 分類体系の構築の際に、NAPCSとの整合性をどの程度まで図る必要があるのかという点についてはいかがお考えか。私はNAPCSの中分類にすべて合わせて、生産物分類の統合分類を分割するという事は行わなくてもいいように感じており、生産物分類の詳細分類でコンバーターを作ることができればいいと考えている。
 - 資料2-1の例3のように生産物分類の統合分類がNAPCSの中分類に一致している、あるいはNAPCSの中分類と生産物分類の統合分類のいくつかをまとめたものが合っているということであれば、十分に合っているという感じがする。
 - NAPCSでもBroad Lineについては回答ができるが、Detail Lineは回答できない可能性があるため、まずBroad Lineは確保して、Detail Lineは回答できなかった場合に補完するという設計になっていたと思う。その点からすれば、NAPCSもかなり妥協の産物だと思われる。おそらくNAPCSも理想的な階層構造にはなっておらず、現実的には本当に取りたいものとはずれているとすれば、NAPCSに合わせる必要はないのではないかと。組み替えをすれば、生産物分類の詳細分類とは対応できるようにしておけばよいのではないかと思う。
 - 生産物分類の統合分類をNAPCSに合わせて分割をしたり組み替えたりすると、調査で回答ができなくなる可能性があるため、私も詳細分類でコンバーターを作ることにより考える。
 - 私も基本的に同じ意見である。生産物分類で設定した「知的財産のオリジナル」の

整理については、NAPCS には対応していないという理解でよいか。

→ 然り。「知的財産のオリジナル」については、NAPCS では分類の対象とはなっていないため対応する分類項目はないが、NAPCS の大分類「知的財産及び関連生産物」に、便宜、中分類「54X 知的財産物のオリジナル」という分類項目を設定して対応付けを行っている。

→ これまでの一連の意見として、NAPCS の中分類と生産物分類の詳細分類だけをコンバートできるようにしておくというようになった場合には、日本は日本で独自の階層構造を作るというようなことはあり得ると思う。そうだとすれば、NAPCS にはない「知的財産のオリジナル」は別に設定をしておく必要はなく、「補助金、寄付金等【R】」と同様に取り除いておいて、調査で必要な場合にはこれらの分類項目を使用するというだけでもよいと思う。

それでは、分類体系の構築の際に NAPCS との整合性をどの程度まで図る必要があるのかという点については、NAPCS の中分類レベルで生産物分類の詳細分類とコンバートができるようにするという意識しながら作業を進めることとする。なお、資料 2-1 の 2 ページに記載のある統合分類「引越サービス」については、統合分類はそのままとし、詳細分類を「住宅引越サービス」と「引越サービス（住宅の引越を除く）」とする方向で検討することとする。

階層構造を作るにあたっては、他に何か注意をして行うべきことがあるか。NAPCS を意識しながら、やはり統合分類を分割しないで済むように組み上げていくということになるか。

→ NAPCS は需要別の品目分類としてはかなり理論的な理想に近く突き抜けている部分があると思う。このため、基本的には NAPCS を参考にして作業を進めていくべきだと考えている。

○ 今後の課題として、CPC との整合性についても考えていく必要があるだろうか。

→ CPC にも NAPCS にもコンバートができる、いずれかのレベルで比較ができるという点については確認をしなければいけないと思う。

→ その点については是非、事務局の方でも念頭に置いてやっていただきたい。

→ NAPCS と CPC とは既存のコンバーターがあるか。

→ それも含めて、事務局で確認する。

→ 用途の類似性（需要側視点）に基づく分類体系の構築については、本日議論をしていただいた方向性で進めていく。今後、現時点では想定できていない問題が出てくる可能性はあると思うので、その場合には適宜、相談をしながら進めていくこととする。

(以上)